青森市社会教育委員委嘱状交付式・
令和６年度第１回青森市社会教育委員会議定例会議　会議概要

１　日　時：　令和６年５月23日（木）13時30分～14時50分
２　会　場：　青森市役所　柳川庁舎　２階　講堂
３　出席者：　棟方　梢議長、青木　敦子委員、石澤　千鶴子委員、岩森　美代子委員、大鷹依子委員、小笠原　秀樹委員、滝口　小百合委員、長尾　信委員、平山　健一委員

事務局：

教育部長	：	大久保　綾子
理事	：	武井　秀雄
教育次長	：	泉　宏明
文化学習活動推進課長	：	東條　英哲
文化遺産課長	：	鈴木　謙一郎
中央市民センター館長	：	阿部　崇
市民図書館長	：	村上　泰子
指導課長	：	後藤　孝範
浪岡教育課長	：	福原　崇

４　次　第
委嘱状交付式
定例会議
案件等
①令和６年度社会教育委員関係年間予定について
②令和６年度青森市社会教育関係事業実施スケジュールについて
③令和６年度東青地区社会教育委員連絡協議会表彰について
その他
①令和６年度東北地区社会教育研究大会、第54回青森県社会教育研究大会について
②各委員からの社会教育に関する意見・要望等について

５　主な質疑応答、意見等
②各委員からの社会教育に関する意見・要望等について

・会社を定年退職し、現役を引退したけど知識もあるし、体力も持て余している、趣味で生きるにはちょっと物足りない、そんな高齢者が増えていることから、ただ受けるだけでなく参加できる社会教育が必要だと思う。行政でも大々的にそういった目線で展開されていくといいと思う。

・高齢者のかたが様々な面で活躍、活動できる場が学校から提供できればと思っている。まだまだ元気な方がいると思うので、部活動の指導など、活躍の場を広げていければいいのかなと思っている。

・青森市の人口も減ってきているので、子どもたちを中心に考えながら、併せて、子育てしやすい街を作って行かなければいけない。そして、今やっている事業をやりながら、新たな見直しを図り、取り組む必要があると感じた。

・先日、出席した会議の中で全員に iPad が配布され、それを活用しながら、行うような会議だった。このような時代になってきている中、そういったことに取り残される高齢者が得られる情報や有益なものも、他の使いこなせる人に比べると、かなり違いがあり、その反面、インターネットの危険性などについても、理解が乏しいことが想定されるので、情報格差が無いようにするために、高齢者のかた向けの講座があれば、高齢者のかたが持っている知識を活用する機会が増えると思う。

・デジタル化が進むにつれて、読書新聞、手書きの温かさというのが、薄れてきているのを寂しく感じる。読み聞かせも親御さんが忙しく、YouTube で見せようという読み聞かせも流行っているので、電車などでお子さんが泣いていても、スマホをすぐ見せる、周りの目を気にして、すぐ見せて泣き止ませるということが増えているが、紙のページをめくる、親と一緒に絵本を見る、触る、そういったアナログなところも無くなってほしくないと思う。

・学校からのお知らせもまちコミに、運動会のお知らせなどもハガキだったものがメールに変わるなど、様々なものがアナログからデジタルへ移行する期間だと思うが、そういった期間だからこそ、みんなが使いやすいようないい方法を探っていくべきだと思う。

・学校現場にいると、電子媒体に移行していく必要性も感じながら、紙媒体で残すものは残して、電子媒体に変えられるものは変えていく、そういった部分を学校の現場ではいろいろと考えて取り組んでいる。どちらにも良さはあるのでうまく使い分けていきたい。

・コミュニティスクールの仕組み自体はいいが、地域の人で「めんどくさいな」、「呼ばれたから行く」そのような感覚でやっている人もいる。この意識改革は、地道にやっていくことで、少しずつでもみんなの気持ちが変わっていけば、全体的に良くなっていくのかなと思う。

・青森市がゴールデンウィークの観光客の伸びが全国で 2 番という話を聞いて、なんで青森に来るのか、地元の人たちが分からないでいる。若い人たちも、にぎやかなところに行って生活を送るということが根底にあると思うので、自分たちの住んでいるところの良さを老若男女問わず、浸透させていくことによって、地域が活性化していくのかなと思う。

・インターネットラジオを取り扱っているが、近年、YouTube をはじめとした映像を見る人が多い中、なぜラジオなのか、それは、人の話している言葉やその温かさを共有したいという思いで継続して行っている。また、イベントをやる際にも、ホームページなどに掲載するだけでなくチラシを配るほうがいいのかといったようにすべてネット化するわけでなく、状況に応じて併存していかなければいけないと感じている。

・青森の伝統工芸品や青森ならではのものを子どもたちが勉強したいと思うこともそうだが、先人のかたたちが培ってきたものを継承できるような仕組みが出来ていれば、県外流出を食い止めることもできるのではないかと考えている。元気のある高齢者に出てきてほしいと思っても役割が無ければ出てくることもできないと思うので、青森の伝統や様々な知識を継承していくための仕組みづくりをしっかり考えて行ってほしい。

・中央市民センターにはいきいきと勉強しているかたがたくさんおり、そういった方々の中にも講師として地域の方に、自分の知識を伝えるなど社会教育のつながり、「人づくり」、「地域づくり」、「つながりづくり」というものをすごく感じた。今後もそのような方々が活躍していけば各世代でつながりが出来て、様々なことを学べるのではないかと感じた。

・様々なイベントや事業について周知しても、なかなか届けたい人に届かないというのは永遠の課題であるが、今は様々なメディアがあるので、うまく発信していろいろな人が関われるようになればいいなと思っている。